

課題名

26. 県内におけるヤノネカイガラムシの天敵ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチの放飼効果について

成果の要約

ヤノネキイロコバチとヤノネツヤコバチは放飼2-3年でヤノネカイガラムシを低密度に抑えた。

成

1. ヤノネキイロコバチのみ放飼3地点、ヤノネツヤコバチのみ放飼2地点、両種放飼4地点のうち、定着しなかった地点はツヤコバチのみ放飼の1地点であった。
2. 放飼3年目でヤノネカイガラムシの密度はかなり低くなり、寄生蜂の寄生もみられることから、防除効果は高いものと考えられる。
3. キイロコバチの寄生率は短期間に高くなるが、ツヤコバチの寄生率はわずかずつ高まった。
4. 寄生蜂に影響が少ないマシン油やブプロフェジンなどの薬剤を散布する条件でも寄生蜂は温存されることから、薬剤と天敵の調和による防除体系は実用可能と考えられる。

第1表 長崎県内へのヤノネカイガラムシ寄生蜂2種の放飼と定着

績

概

要

放飼地	放飼月日 (年月日)	種類	頭数	定着の可否
加津佐町	1983. 6.29	ヤノネキイロコバチ	368	キイロ ○
多良見町	1983. 7. 6	"	392	キイロ ○
高来町	1983. 7.20	"	368	キイロ ○
石田町①	1983. 7.11	ヤノネキイロコバチ	398	キイロ ○
	1984. 5.23	ヤノネツヤコバチ	♀70, ♂13	ツヤ ○
時津町	1983.10.20	ヤノネキイロコバチ	425	キイロ ○
	1984. 4.26	ヤノネツヤコバチ	♀100, ♂22	ツヤ ○
富江町	1984. 7.11	ヤノネキイロコバチ	282	キイロ ○
	1984. 7.24	"	20	ツヤ ○
上五島町	1984. 5.23	ヤノネキイロコバチ	100	キイロ ○
	1984. 7.16	"	227	ツヤ ○
福江市	1984. 5.22	ヤノネツヤコバチ	♀50, ♂40	ツヤ ○
石田町②	1984. 5.24	"	♀30, ♂6	ツヤ ×

第2表 長崎県内へのヤノネカイガラムシ寄生蜂2種の放飼による密度抑制効果

放飼地	1983				1984				1985					
	6~7月		10月		11月		5月		9~11月		6月		11月	
	a) ヤノネ 密度 A	b) 寄生 率 B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
加津佐町 1	10312	0			4650	647								
加津佐町 2							3670	214	3136	333	0025	96.3	0455	11.7 (7.0)
多良見町	8092	0			1430	606	0810	664	0212	241	0010	522	0	-
高来町	8511	0			1760	546	0230	31.7	3175	119	0017	879	0742	381
c)d) 石田町① (島しょ)	3610	0			1290	514	0300	722	1044	601	0084	92.4 (3.6)	0016	82.3 (6.5)
時津町			7582	0	9464	13	11200	85	0403	345	0031	34.8	0239	50.7 (7.1)
d) 富江町 (島しょ)							0070	0	0078	31.7	0039	53.6	0102	41.3 (1.5)
上五島町 (島しょ) c)							0080	0	0205	69 (1.9)	-		0015	79.8 (51.7)
福江市 (島しょ)							0160	0	0314	21.3 (21.3)	0684	53.7 (53.7)	0.193	15.6 (15.6)
石田町② (島しょ)							3000	0	1128	0				

- a) 生存雌未成熟成虫 + 成虫/葉
 b) ヤノネキイロコバチ寄生率 + ヤノネツヤコバチ寄生率
 ()内、ヤノネツヤコバチ寄生率、()ない場合ヤノネキイロコバチのみ寄生
 c) 1985年6月 ブプロフェジン水和剤1000倍散布
 d) 殺菌剤と殺ダニ剤(酸化フェンブタスズ水和剤2000倍1回のみ)散布

(昭60長崎果試)

普及上の留意点

天敵利用防除技術の農家レベルでの普及が現実性をもって推進する段階にきている。